



あ ん ど う と し ひ ろ

安藤利博

議会報告

第8号
令和5年3月

発行人: 安藤利博

〒709-0721 赤磐市桜が丘東 4-4-695

TEL・FAX 086-995-3714

携帯番号 090-7137-6605

E-mail qqjiteki5963@gmail.com



(議会中継)



(LINE)

都市計画変更に伴う補正予算（委託料）可決

12月議会で予備費に振替えられた立地適正化計画作成に要する資料作成委託料が再度上程されました。立地適正化計画を考える前に、赤磐市発足後、**17年間の人口推移**にお気づきでしょうか。

右下表の通りで、桜が丘を除く旧4町地区はいずれも2,3割の減少です。吉井に至っては2/3以下に減少。しかも、次代を担う64歳以下は桜が丘以外では6割前後に減っています。反対に、65歳以上の高齢者は軒並み1~3割の増加、山陽団地、桜が丘は2倍を超えています（吉井は高齢者さえも減少）。

立地適正化計画は、今後さらに**人口減少**や**少子高齢化**が進むと見込まれるこれからの日本の都市作りをどうするかを決めるものです。

立地適正化計画は、市街化区域内に都市機能誘導区域、居住誘導区域を設けて、コンパクトシティを目指すもので、赤磐市が進めようとしている新拠点構想は、立適計画に逆行しているようにも見えます。

新拠点構想（河本・岩田地区）

- ・市街化調整区域の市街化区域への編入
- ・公共交通で結ばれ、賑わい、交流機能を提供する拠点
(バスターミナル、道の駅、大型商業施設・・・)

しかし、この新拠点は赤磐市発足後からいわれていることで、市議会の一般質問でも多くの議員が何回も取り上げています。

また、赤磐市都市計画マスタープランや赤磐市総合計画でも「立地適正化計画に基づき河本・岩田地区周辺に新たな都市拠点を整備し・・・」と明記されています。

そこで、採決に先立ちこの委託料が何のために必要なのか、この新拠点構想が雇用増につながる企業誘致が可能なのか、それによるマイナス面はないのかなどを確認しました。

(4頁に続く)

赤磐市人口推移・年齢別構成

		H17年3月	R4年3月	増減%
山陽	0~64歳	7,168	5,561	77.6
	65歳以上	2,584	3,370	130.4
	合計	9,752	8,931	91.6
赤坂	0~64歳	3,612	2,122	58.7
	65歳以上	1,438	1,653	115.0
	合計	5,050	3,775	74.8
熊山	0~64歳	3,575	2,332	65.2
	65歳以上	1,397	1,599	114.5
	合計	4,972	3,931	79.1
吉井	0~64歳	3,546	1,758	49.6
	65歳以上	1,911	1,722	90.1
	合計	5,457	3,480	63.8
山陽団地	0~64歳	5,608	2,261	40.3
	65歳以上	1,006	2,187	217.4
	合計	6,614	4,448	67.3
桜が丘	0~64歳	11,955	14,402	120.5
	65歳以上	1,824	4,105	225.1
	合計	13,779	18,507	134.3
総計	0~64歳	35,464	28,436	80.2
	65歳以上	10,160	14,636	144.1
	合計	45,624	43,072	94.4

(山陽、熊山は山陽団地、桜が丘を除く)

歴史遺産の整備・活用について（一般質問より）

両宮山古墳、備前国分寺跡は赤磐の誇るべき国指定の史跡です。

両宮山古墳は平成 30 年 5 月に「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～」として**日本遺産**に認定された構成文化財です。しかし、この認定を待つまでもなく、今から 96 年前の昭和 2 年に国指定史跡に指定されている。備前国分寺跡も昭和 50 年に同じく国指定史跡にされています。

国指定史跡とは、有形文化財でいえば「国宝」に相当する貴重な歴史遺産、国の宝です。

遺跡は、保存・整備と活用を車の両輪として両立を図ることが重要といわれています。50 年前、100 年近く前に国指定史跡にされながら、今までそれに相応しい保存・整備、活用がされていません。

備前国分寺跡

国分寺跡は発掘調査はされているが、整備されているのは、講堂基壇と七重層塔だけ。



講堂基壇



七重層塔

赤磐市民でさえどこから入れば良いのかも分かりづらい。進入道路、駐車場、トイレも整備されていない。

奈良の平城宮跡は建物、塀などがあった場所に柱のように刈り込んだ木が植えられています。

それだけでどこに建物があり塀があったのか、当時の姿を想像できます。

工夫すれば復元しなくても、当時の姿を表現できます。



一方、同じ国指定史跡の備中国分寺は、五重塔と、周りのレンゲやコスモスなどの花畑が広がる景色で、岡山の代表的な観光スポットになっている。敷地は芝生が植えられて雑草が生えにくく整備されています。



備中国分寺と比較して整備が遅れている、宝の持ち腐れではないか、と問いましたが、遅れているとは思っていない、との答弁でした。

両宮山古墳

両宮山古墳は、県下で 3 番目に大きな古墳。

しかも、二重周濠を持ち、今も内濠には水をたたえている奈良、大阪の天皇陵にも匹敵する県内唯一の貴重な古墳です。

しかし、後円部の北側の内濠は埋め立てられ、外濠にいたっては現地に行っても見ただけではどこにあったかも分かりません。



水をたたえた内濠



埋め立てられた内濠部分

岡山市の造山古墳は墳丘の頂上まで歩いて行け、今も真砂土舗装での整備工事が続いています。岡山大学等のミュージオンでの調査も行われています。



造山古墳墳丘頂上

整備中の真砂土舗装

右下がミュージオン調査装置

両宮山古墳は墳丘の高さが 24～25m もあり 7、8 階建てのビルに相当する高さです。

今は両宮神社までしか入れませんが、墳丘頂上まで行ける道を整備すれば、周濠や国分寺跡、市街を見わたせ違った景色が見えます。

内濠浚渫、外濠明示方法、墳丘整備を問いましたが、専門家の意見を踏まえ、今後の整備計画を検討する、と言うに止まりました。

赤磐の古墳

両宮山古墳の周辺には、和田茶臼山古墳や森山古墳、廻り山古墳など誰が見てもすぐに古墳と分かる古墳が多く有ります。近くには朱千田古墳、小山古墳もあり、山陽団地には岩田14号墳など多数有ります。

そこで、赤磐市には何基の古墳が有り、そのうち調査済みは何基かを問いました。

答弁では、大小 550 基ほど、調査済みは約 85 基とのこと。しかし、その殆どが、宅地開発や圃場整備に伴うもので、いわば受身で調査されたのです。

考古学の発展、赤磐の宝の発見のために、古墳の学術調査はもっと積極的に進めるべきだと進言しました。



森山古墳



廻り山古墳

山陽郷土資料館

資料館には縄文時代から中世までの遺物が展示されています。赤磐市の小中学生は教科書だけでなく、実物を見て郷土の歴史に触れられる恵まれた学習環境にあります。

しかし、資料館は建築後 45 年で、耐震性検査もされておらず、市庁舎の近くにある必然性もない。生きた教材がある備前国分寺跡の近くに**移設**すべきだと進言しました。

文化財班、資料館職員は高度な専門知識が必要なので身分の安定した**正職員**にすべきだと進言もしました。



歴史公園

赤磐市には備前国分寺、両宮山古墳という二つの大きな歴史遺産が隣に並んでいる。古墳時代、奈良時代の遺跡、それも国指定史跡が並んでいる遺跡はおそらく他にはない。

更にこの辺りは古代山陽道が通り高月駅馬うまや（馬屋の語源）があり、伊能忠敬が歩いた道など古墳時代から近世までの歴史の宝庫。

赤磐市教育委員会の事務点検・評価書では「備前国分寺跡については隣接する両宮山古墳や周辺地域を含めて一体的に歴史公園等として整備することが望まれます」とあります。以下は私の歴史公園のイメージです。

先ず県道吉井岡山線より山陽自動車道の橋脚の間を通り、国分寺跡までバスも入れる道路を通す。駐車場、トイレも整備する。

造山古墳には訪れた人へのビジターセンターがある。山陽郷土資料館を移設に併せて、ビジターセンターを兼ねた資料館にする。



県道から国分寺への道



造山古墳ビジターセンター

国分寺から両宮山古墳の墳丘の頂上まで歩いて行ける道を整備する。

史跡内は芝生を植えて、家族がピクニック気分で楽しめるようにする。

市外からも多くの観光客が来るように、史跡との相乗効果を狙って「道の駅」を何も無い田んぼの中の河本・岩田地区でなく歴史遺産、国の宝に囲まれたこの近くに作る。



備前国分寺跡より
両宮山古墳を望む

市長は、赤磐 FM 中継局開局 3 周年の公開生放送で「赤磐といえば、宇宙一の桃のガスタンク」と発言されました。市外に発信するなら「赤磐といえば、両宮山古墳、備前国分寺」ではないでしょうか！

備中国分寺周辺は、岡山県が整備した「吉備路風土記の丘県立自然公園」です。

総社市に負けないように、教育委員会評価書の通り「備前風土記の丘赤磐市立歴史公園」として一帯を整備して、県内はもとより全国に赤磐の魅力を発信していただきたいものです。

都市計画変更に伴う委託料についての質疑、執行部確認事項

問 作成委託するのは、都市計画変更手続きに必要な資料か

答 県、国との協議で必要となる市街化区域編入規模の妥当性、根拠などの説明資料

問 大型商業施設誘致により、既存事業者への悪影響はないか

答 スーパーは誘致しない。既存業者との競合についてもしっかり考えて誘致を図る

問 市街化区域編入後に、どのような企業の誘致を考えているか。問合せはあるか

答 まちづくりの理念に合致する複数の優良企業からも興味を示されている

問 雇用増加はどれくらい期待、希望しているか

答 複数企業の進出が可能で、相当数の雇用が見込まれる。幅広い雇用の受け皿になる

問 財政面での特別措置はあるのか

答 都市構造再編集集中支援事業(補助率 1/2))や、交付金など有利な財源を活用する

問 12 百万円も支出して、結果的に国・県の承認が得られなかったでは済まされない

答 政治生命というより、赤磐市の将来をかけている

この委託料は新拠点整備の入口段階である、都市計画変更手続きに必要な資料作成であることを確認したうえで、補正予算に賛成しました。

赤磐市には新拠点より優先すべき山陽団地、桜が丘中央の再開発、人口減少が著しい赤坂、吉井地区のまちづくりなど課題が山積しています。市長にはこれらにこそ注力を望みたいです。

議会でも「まちづくり調査特別委員会」を設置しました。赤磐市全体のまちづくり、振興計画について調査、協議していくことになりました。

「赤磐市議会だより」第 72 号表紙写真

表紙写真の鳥は、私が撮った我が家に来てくれた冬鳥たちです（キジだけは留鳥です）。やや手違いがあって 1 枚分のスペースが空いてしまいました（もう 1 枚入れれば良かったと思っています）。この他にもたくさんの野鳥が我が家を訪れてくれます。

しかし、今冬は不死大池へ来るカモが極端に少なかったのが残念でした（原因不明です）。



ミコアイサ



ヒレンジャク



ジョウビタキ

安藤利博 議会報告会

安藤の議会での模様は「赤磐市議会だより」や、「議会報告」でお知らせしていますが、紙面の関係から要点だけです。

そこで、昨年に続いて 2 回目の議会報告会を計画しました。

ご都合をつけて是非ご参加下さい。



(昨年の議会報告会)

日 時 令和 5 年 4 月 29 日 (土) 午前 10 時～12 時
場 所 赤磐市立中央公民館 視聴覚室